

2011年 NIE特集

教育に新聞を



早わかり 新聞活用



20年以上の歴史のある我が国の新聞活用学習（NIE）。
工夫が積み重ねられ、様々な手法が開発されています。
分かりやすく楽しく取り組める基本的な方法を紹介しましょう。（坂井伸行）

2011年4月 読売新聞別刷り



NIEの◆実践編



スクラップをする

スクラップは新聞活用教育の基本です。毎日読む新聞の中から気に入った記事を切り抜いて取っておき、紙やノートに貼ります。政治、福祉、スポーツなど明確なテーマを設定して集めるのもいいし、愛、悲しみ、怒りといった抽象的な概念で集めるのも楽しいです。

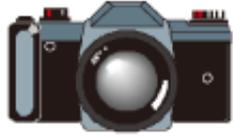
記事を理解し、いいと思うものを選び出す作業は、世の中の出来事を主体的に判断する力を養います。

さらに、これはという記事を何枚か模造紙のような大きな紙に並べて貼り、「スクラップ新聞」に仕上げてみましょう。題字や見出しも付け、自分なりの感想や意見をまとめたコラムを添えると、考えが整理され、紙面が引き締まります。

子どもたちの作品ができたなら、教室で発表会をしましょう。なぜそのテーマにしたか、選んだ記事はどのような点が気に入ったのか、作った新聞を通じて何をみんなに訴えたいのか—などを自分の言葉で表現するのです。

友達が思いもよらない問題に興味や関心を持っていたことを発見するかもしれません。人の考えを聞き、それに共感したり、反論したくなることもあるはずです。互いに討論する練習にもなります。





写真を読み解く

新聞には様々な写真が載っています。目に飛び込んでくる写真は、活字が苦手な子には文章を読むより取り組みやすいかもしれません。

まず気になった写真を選びます。記事本文や写真説明を読まずに、そこに何が見えるか、子どもたちに答えてもらいます。写っているものだけでなく、見えないものにまで想像が及ぶはずで

す。写真をきっかけに興味ที่わき、さらに詳しく知ろうと本文に読み進んでいけば無理なく新聞に親しめるでしょう。写真は、ニュースを考え判断する大きな助けになります。

低学年なら季節感ある風景、好きなスポーツ選手、感動的な場面といったテーマで写真を集めてみましょう。自分でタイトルや説明文を考えるのも楽しいものです。



新華社AP



四川大地震と日本救助隊

中国の対日感情ががらりと変わるきっかけになったのがこの1枚。2008年5月の四川大地震で、日本の国際緊急援助隊が現地入りし活動しました。当時、生存救出できなかった母と赤ちゃんの遺体を前に、一同整列し黙とうをささげたシーンです。

この写真が中国で配信されると、「感動した」「ありがとう日本」といった賛辞がネットの掲示板に集中しました。戦争経験をもとに反日教育が行われ、多くの人が日本に嫌悪感を抱くとされる中国。でも援助隊員の振る舞いを目の当たりにし、その感情に微妙な変化が生じたようでした。現地メディアも「真剣で勤勉、わずかな希望も放棄しない態度に深い印象を受けた」「我々も犠牲者に最後の尊厳を与えるよう努力すべきだ」と絶賛したものです。

国や文化が違ってても分かり合えることがあります。なぜ中国の人たちの気持ちが動いたか、子どもたちに考えさせる材料でしょう。



イルカと人

大きなイルカと小さなイルカ、向こうに別のイルカの影。海で出会った人間に親しげに話しかけているようにも見えます。

心身ともに疲れ切っていた彫刻家が、イルカに癒やされ、今度は尾びれを失ったイルカのために人工尾びれを開発。それを工夫して人間用の足ひれを作りました。それを着けて父島沖の海に潜った光景です。本紙「ズームアップ」に掲載されました。

彫刻家は足ひれの販売収益で海洋生物の保護基金を作る計画で、「勇気づけられた海の生き物に恩返しできれば」と記事にあります。

このイルカと彫刻家はどのような会話をしているのでしょうか。子どもたちに考えさせてください。感謝、支え合い、夢の復活など様々な思いがよぎるでしょう。英語で寸劇を考えたり、どんな音が聞こえるかなど、教科書ではできない授業になりそうです。



焼き場の少年

「少年の口が一文字。目を凝らし指先も伸びている」「白い布をかぶった箱がある」



© Joe O'Donnell

「赤ちゃんが眠っている」—何が写っているか聞くと子どもたちは色々答えます。

長崎の原爆投下直後、現地に入った米軍記録班のジョー・オダネル氏が撮りました。そこは遺体の焼き場。大人が少年のおんぶひもを解いたので、弟らしい背中の子が死んでいることに気づきました。炎を見つめる少年の唇には血がにじんでいたそうです。

氏は必要な対象以外は撮るなという命令にそむき、自分のカメラで悲惨な光景にもレンズを向けました。40年以上たってその封印を解いたのです。少年の思い、後の人生、氏はなぜ公開したのかなど、子どもたちにも目に見えないものが見えてくるはずです。



天皇とマッカーサー

終戦直後、昭和天皇が連合軍総司令部(GHQ)最高司令官のマッカーサーを訪ねた際、二人が並んだところを米軍のカメラがとらえたのがこの写真。「神国日本が負けるはずはない」と疑心を抱いていた国民の間に、敗戦の現実をまざまざと見せつけ、占領への反発を鎮める効果をもたらしました。

モーニングで正装した天皇陛下は直立し緊張の面もち。一方、マッカーサーは開襟シャツの軍服で、両手を腰に当てゆったりしています。

「不敬にあたる」とあわてた日本政府は、写真を載せた新聞を発禁処分としましたが、GHQはこれを取り消させ、結局、写真は新聞を通じて国民の目に留まることになりました。

天皇制を維持したい日本と、占領政策を遂行するうえで天皇の威光を借りたい連合国。まもなく天皇は人間宣言をし、象徴天皇制、戦争放棄を含む憲法が施行されました。どのような変化をもたらすか、巧妙に計算された1枚だったと言われます。



ニュースキャスター役で判断力や表現力を養う

伝える難しさを知る
*キャスターに挑戦

「みなさんこんにちは。きょうは〇〇についてお知らせしましょう—」

ニュース番組のキャスターになったつもりで、新聞から伝えたい記事や広告を選び、内容をみんなの前でスピーチします。数人のグループごとに行ってもいいでしょう。

あらかじめ原稿に、▽いつ▽どこで▽だれが▽なにを▽なぜ▽どのように—といった点を順序立てて簡潔にまとめておきます。最後に自分はどう思うかを付け加えます。

話し方は、あわてずゆっくりと大きな声で。慣れてくると、聴衆を引き込むために、興味深いたとえ話から入ったり、身ぶりを付けたりしてもいいでしょう。

自分の発見や驚きをみんなに伝え、共感を得たいというのは誰しも持っている気持ちです。グループごとに記事を持ち寄り、どれがいいか話し合えば編集会議。キャスターを演じるのは、それらを上手に伝える練習になります。発表の際、選んだ記事やまとめ方、意見、話し方などについて、互いに採点して評価しあうのも楽しいです。

発表だけでなく、できればニュースに対する意見や体験を通じて感じたことなどを400字程度にまとめます。それを新聞に投稿するのです。投書として掲載されると、読んだ読者から反響が寄せられることがあり、学習の励みになります。キャスターの学習は、読む、書く、聞く、話すの総合力が身に着きます。



テレビ欄から何が見える？

放送局の役割考える

ニュース、ドラマ、お笑い、アニメ……児童らがテレビ番組の種類を挙げます。「色んな種類があることに気づいたね。では色分けしてみよう」。今度は蛍光ペンで新聞のテレビ欄を塗り分けていきます。

東京都大田区立東調布第一小学校5年2組で昨年末、新聞のテレビ欄を使って行われた授業です。社会科「情報産業とわたしたちの暮らし」の単元で、放送局がどのように情報を送っているのかをテレビ欄を通じて学ぼうというものです。

「各放送局がどんな番組編成をしているかは、一覧性のあるテレビ欄を見ると一目でわかります。全体を眺めて気付いたことは？」

佐野一道教諭の質問に、児童から「NHKは1時間ごとにニュースを流す」「朝、天気予報が多い。傘を持って出かけた方がいいかわかる」といった声があがりました。

ここで教諭はく放送局は〇〇という工夫をしている。なぜなら〇〇だから>と書いた紙を全員に配布。児童らは空欄に思い思いの言葉を書き込み、発表しました。

「放送局は朝早くからニュースを伝える工夫をしている。なぜなら大人が会社に行く前に知りたいから」

「アニメを夕方放送する。子どもたちが帰宅してほっとする時間だから」

放送局は見る人の求めに応じて番組を放送し、受け手のことを考えて情報発信しています。放送局の役割について児童は改めて気付いたようでした。佐野教諭は「昔のテレビ欄を調べ、その時代の世相を知るのも楽しい。自分で興味を持ち、さらなる調べ学習に結びつけられたら」と考えています。



テレビ欄を種類ごとに色分けをする